

**編 集  
後 記**

私は無類の怠け者である。しかし土木学会  
会員中には私の同類も少しはいるようで、届  
けられた学会誌を読みもしないで本箱に放り  
込む方も散見されるように聞く。著者の顔ぶれを見た  
だけで難解なものと速断するらしい。

＜内容が充実していかつ広く親しまれる学会誌を＞  
これが学会誌の編集方針である。少しでも上記のごとき  
＜積どく＞の土がいることはこの方針に反するし、また  
わが土木技術向上のためにも望ましからぬことである。  
何とか会誌に親しみを持ってもらうような策を考えねば  
ならない。それには体裁の良し悪しは、ひとまず別とし  
て、内容に直接関係のないこの欄あたりに怠け者が顔  
を出し、同類に呼びかけるのが効果的である。どうやらこ  
こらあたりが委員長このたびの本欄執筆命令の目的と  
思われる。小生にとっては責任重大だが器が器だから底  
は見えている。駄筆をお許し願いたい。

さて、＜研究所問題＞を特集すると聞いて、「技術者  
は毎日が研究であって、いまさら……」とおっしゃった  
老大家がおられたとのこと。下の句は聞きもらしたがご  
もつともである。先生ご自身どのような日々を送って  
おられるかは知らないが、無為の毎日を過すわれわれには  
耳の痛い言葉である。

お天気の講座に加え、今月から「測定」の講座が始  
ることになった。土をこね、計測器を眺めて暮す私には  
いささか親近感があり、期待している。測定に関する新し  
い知識を、平易な形で与えて下さるよう読者の一人とし  
て担当の諸先生をお願いしたいと思う。

最近計測技術が長足の進歩をとげ、われわれも少な  
からずその恩恵を受けているが、反面計測器に引きまわ  
され、実験をしている本来の目的を見失う傾向を目にする  
ことがある。この講座を機会に反省したいものである…  
…。

(米田・記)

土木学会  
創立 50 周年記念出版

日本の土木技術

— 100 年の発展のあゆみ —  
日本の土木技術編集委員会編

「日本の土木技術」は土木各分野の専  
門家約 70 名が、それぞれの分野におけ  
る発達史を概説したもの。土木技術と国  
土の開発・水の利用と水との戦い・交通  
路の整備・都市の建設・材料の進歩と構  
造技術の進展・基礎技術の進歩の 6 章に  
大分類され、さらにその中で、たとえば  
河川工事とか堤防、あるいは道路・港湾  
・ダムなどと小分類されている。章末の  
基本的な参考文献と索引、および明治元  
年から今日にいたる日本の土木技術年表  
は、この本を利用する一般の人びとにか  
なり便利なものになろう。

と岩波書店刊「科学」の書評欄にとり  
上げられた本書は、土木技術にその毎日  
の生命をかけている者全員の必読の書と  
考えられる。また、これから土木工学を  
学ぶ若き学生諸君には、ぜひ読んでもら  
いたい書でもある。

A 5 判 488 ページ  
定価 1 200 円・送料 150 円

土木学会  
創立 50 周年記念出版

建設／創造／技術

土木学会編／彰国社刊

戦後大きな発展をみたものの中に建設  
事業がある。

本書は土木学会創立 50 周年を記念し  
て、土木学会が全国各地より集めた工事  
写真を中心として、これに論説、解説、  
工事リストを付した一大写真集である。

今日まで歩いてきた建設のあゆみを、  
特に大きく発展したここ 10 数年を中心  
にふりかえてみるのも決してむだでは  
あるまい。ユニークで豪華なパノラマは  
書齋に飾るにふさわしい大作である。

A 4 判 280 ページ  
定価 3 800 円・送料 200 円

土木学会  
創立 50 周年記念出版

土木学会誌  
論文集総索引

土木学会編

新しい研究、設計、施工を始める  
とき、どうしてもひもといてみなければ  
ならないものに過去の文献がある。

本書は土木学会創立 50 周年を記念し  
て、土木学会が学会創設以来の文献（学  
会誌・論文集登載分）を整理分類し配列  
したものである。

技術者、研究者の座右の書として備え  
られることをおすすめする。なお本書は  
種々の関係で再版は不可能である。残部  
200、お早くお求め願いたい。

B 5 判 252 ページ  
定価 800 円・送料 100 円